

大学病院で余命宣告を受けた方が  
松本医院を受診して快方へ。

## 「肝硬変闘病記」 匿名希望

51 歳

2016 年 4 月 26 日

二年前突然、お腹の左部に痛みが起きました。軽い気持ちで近所の内科に行って血液検査を受けたところ、大学病院を受診するように言われました。今まで大きな病気をした事もなく、なんで？という気持ちと不安な気持ちで紹介されるがままに大学病院の診察を受ける事になりました。お決まりの？血液検査、CT、超音波を受けさせられ、まず若い医師に告げられたのは・・・軽度の肝硬変とのことでした。そして日をおいてまた受診したところ、今度はその上司らしき医者になんと「余命1年宣告！」を受けてしまいました。「ステロイドをしなきゃすぐ死にますよ」ぐらいの脅迫まがいで、インフォームドコンセントを受けました。MRIなどの後、肝生検も含めステロイド多量投与の治療をひと月くらい入院して受けなければ余命1年だとにやけ顔で断言されました。声が出ないと同時に「何で1回目の時は軽度で、2回目の時は余命宣告??？」と疑問でした。医師は、「強いステロイドを大量に使うから副作用も覚悟して納得してください」とさも何かを読み上げるように淡々と事務的にドライに告げ、「さてどうしますか？」もなしに入院の手続きを事務的にすすめようとなりました。「えっ？どのくらいの入院ですか？」の問いに平然としれっと「1ヶ月半くらい」と言われました。また、その病院ではなく提携の県の病院を紹介され患者の意思置き去りかのように手続きがすすめられ、無視していたら県の病院からはしつこく電話が何度もかかってきました。「あほかっ〜。こちとら小さい小学校低学年の娘がおるんやぞ〜しかもなんで急転直下で余命宣告やねん！しかもそんなおそろしいステロイドなんか、はいそうですか、なんて受けられるか〜！どないしよ、どないしよ、どないしよ」ととりあえずパソコンたたいてステロイドで検索してたまたま松本医院にたどりついたわけです。大学病院からの何回かにわたる入院催促の電話はもちろん無視。検索すればするほどステロイドの恐ろしさ、生命に対する矛盾、しかも肝硬変にはそれしかないような記事ばかり。そんな中たまたま松本医院にヒット。松本医院については、さんざんネット上で書かれていますから、賛否両論、行ってみなきゃわからんと何となく

HP 上の熱さに導かれとりあえず愛媛県からフェリーに乗ってはるばる大阪へ。

お腹は腹水とやらで張るし、足はパンパン、目は黄色っぽいし、ネット上の肝硬変の症状そのもの・・・まさしく藁をもつかむ思いでした。「死なないよ。」血液検査などを見ての松本先生の第一声でした。私達にはその一言で十分でした。その後定期的に診察を受けています。そのたびにいろいろとお話をさせていただいていますが、ネット上であれこれ書かれてはいますが、自分で生きようと意志を示せば必ず最善の手をさしのべてくれる方だと私達は全面的に信頼させていただいております。ただし他人任せの人間には手厳しいです。つまりは難病を克服しようなんて奇跡を起こすにはわしといっしょに闘わんかいという緊張感のある日本では唯一の病院でしょう。しかも「病気を治すのはあんただよ。医者なんてなににもできんよ」と、伺う度に聞くせりふです。口は悪いけどめっちゃ正直で笑っちゃいます。その度に長い闘病生活で挫けそうになる心に一本芯を入れてもらい、背筋ののびる思いです。血液検査の数値は現在もなんらかの異常を示してはいます。ですから、今も闘病中です。しかしながら腹水や足の極端なむくみ、目の黄疸もおかげさまで落ち着いています。そして、なによりも二年たった現在、おいしくご飯が食べられて、家族で笑えて、まさに快食快眠快便です。それだけで十分です。十分感謝です。漢方様様。そしてなによりも松本先生に出会えたことが私の人生を色濃くしてくれていると感謝しています。

最後に・・・私達は福島の大震災で被災し、この肝硬変の原因もまがいなく放射能由来だと松本先生に診断されています。私達は震災により現代における医療、政治も含め様々な洗脳から目が覚めたような思いです。いつも松本先生の HP を拝見して腑に落ちることばかりです。敵ははっきり見えています！あの時ステロイドに安易に手を出していたら、今の私はあるのでしょうか。告知された時の驚き、不安、そしてにやけ顔でにやにやと余命一年と脅迫した大学病院の医者！訴えてやる～って感じです。これからも巨悪に立ち向かっていきます！！また何年後かに生きていたらまた闘病記いや、完治の知らせを書きますね。

つづく